

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000115		
法人名	医療法人真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム杉本		
所在地	大阪市住吉区杉本1丁目6番16号		
自己評価作成日	平成26年12月16日	評価結果市町村受理日	平成27年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慢性疾患や医療依存の高い利用者でも、安心して暮らせるように環境を整備しています。常に医療関係者と連携がとれるような体制を整えています。また、介護従業者にも、必要な医学的知識の研修を行っており、入居される方だけでなく、ご家族にも安心していただけるよう取り組んでいます。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、泌尿器科・内科のクリニックを母体として、医療・介護の事業を展開する事業体により開設され、建物2階・3階が当ホームで、1階に小規模多機能型事業所が併設されている。事業所の特長は、少人数の個別ケアの支援を大切に取り組んでいることである。管理者は計画作成担当を兼務し、センター方式のアセスメントも行って、ケアプランの作成、担当者会議、モニタリング・評価、計画見直しを図る過程で、さらに綿密な本人本位の支援計画の実施に向けて、現在取り組んでいる。研修を積極的に実施して、職員の介護や医療のスキルアップに取組み、また、提携医の毎週の往診で安心な健康管理が図られている。利用者は日常的な近隣への散歩や、地域行事を通して、楽しみながら地域との交流を図っている。1階の別事業所は現在未開設であり、2・3階の2ユニットも定員の余裕があるので、広く清潔な居住環境で利用者は職員とともに、ゆったりと居心地よい暮らしを営んでいる。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア入口に理念を掲示し、従業員全員に周知させ、理念の共有に努めている。	自他の幸せと喜びが、皆の幸せと喜びとなるとの趣旨の法人理念を、エレベーターフロアに掲示している。管理者・職員全体での、理念の認識と共有・実践に課題がある。	地域密着型のグループホームに相応しい事業所独自の平易で簡潔な理念を、管理者と職員でつくりあげ、共有して実践に取り組むことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月地域で行われる喫茶や地域が行っている。行事や催しに参加し、地域の人と交流の機会を図っている。	町会に加入し、地域の祭や催しに参加したり、地域の「ふれあい喫茶」に、多くの利用者が毎月出かけて交流している。管理者は地域との密な連携を模索して、ボランティアの受け入れや、ホームから認知症啓蒙活動の提案などを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護従事者に順次、認知症サポーター養成講座を受講させ、その役割を生かすよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告をさせて頂き、その評価や意見を参考にしてサービス向上に向けて努力している。	昨年は運営推進会議を4回開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、ホーム管理者・関係者の参加で業務や行事、検討課題等の報告を行っている。地域からの提案もあり、双方向的な会議となっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回以上開催が、義務規定である。前回外部評価時の指摘事項でもあり順守が望まれる。知見者、家族の参加、内容・議事録の充実と公表、利用者家族への報告等も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所生活支援担当者とは毎月、連絡をとり、入居の方の状況を報告するなど、できる限り協力関係をとれるよう努めている。	行政担当部署への介護保険関係の事務手続き代行、生活保護関連の申請で区役所の生活支援課との連携など行っている。実地指導の機会もあり、適切なアドバイスを受けている。行政主催の研修会、説明会で情報提供も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない理由がある場合以外は、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束に関わるような利用者はいない。管理者は、マニュアルの充実や研修により、身体拘束の弊害についての理解を深めたいと考えている。ユニット間は開放しているが、玄関は施錠している。外出希望には本人の意に沿うような対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待がないよう、常に取り組んでいる。また、事業所内においても、同法の趣旨を従業員全員が共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本制度の利用が必要な方については、関係者と話し合いが持てるよう働きかけるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、要望が反映できるよう会合を開き、周知徹底に努めている。	家族の面会時や、電話連絡、サービス計画見直しなどの際に家族と話し合い、意見要望を聞いて運営に反映している。管理者は、毎月の利用料請求書送付時に、利用者個別の状況の連絡・報告や、途切れているホームの「新聞」作成等で、家族と連携を深めることを検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従業員の意見や提言はその都度聞き、フロア会議や全体会議で取りあげ、運営に反映できるよう努めている。	日常のケアの場や、申し送り時、毎月のフロア会議などで意見、要望、提案を聞き、運営に反映させている。上司と個人面談も機会もある。新人職員も多いので、管理者は気軽に話しやすい職場環境作りに注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準とモチベーションの相関を考え、常に従業員が前向きに働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	従業員個々の力量は常に把握しており、法人内外での研修受講の機会を設け、スキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの世話人をしており、同業者と交流する活動を通じ、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の置かれている状況を踏まえ、要望に対してこまめに耳を傾け、満足して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所の際、常に意見や要望を聞き、その内容をサービスに反映させ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がどの時点でどのようなサービスが必要であるかを含め、支援できる対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の一方的な支援ではなく、残存機能を生かした暮らしができるよう、職員と一緒に生活するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には常に状況を報告しており、本人と家族の絆が切れないう、様子を知らせたり、催しに家族も参加してもらい、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が気軽に訪問できる環境づくりに努めており、催しに家族も一緒に参加してもらうよう促し、関係が途切れないよう努めている。	毎日、家族の面会がある方や、近隣居住の友人来訪がある入居者もいる。家族の同伴で行きつけの美容室に通う利用者もいる。入居前から本人が通っている認知症サポート団体への交流持続のための、外出の支援も取り組んでいる。センター方式のアセスメント活用で、馴染みの関係の把握と継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場であるので、常に協力して頂き、関わり合い・支えあいができるよう、常に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わった後も、関係性は継続していけるよう、必要に応じ、相談や支援を受けて頂けるような体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に個別対応の方向で支援しており、個々の人格・要望は尊重するよう、努めている。	日常のケアの見守りの過程で会話から察したり、入浴時などリラックスして、1対1で話し合える時などに、思いや要望を聞く機会を大切にしている。意思の表出が困難な利用者には、表情やしぐさなどから、本人本位の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	従業者は常に共通の情報を持って支援に努めるとともに、会合の場等を用い、個々の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	従業者は常に共通の情報を持って支援に努めるとともに、会合の場等を用い、個々の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に係わる関係者と話し合い、現状のニーズに適合した介護計画の作成に努めている。	本人・家族とのアセスメントでサービス計画を立て、担当者会議、モニタリング・評価、見直しを行っている。管理者は個別ケアのサービス内容のモニタリングを、職員が日常的に行い、月次で計画作成担当者が評価できるように、介護計画のシステムの見直しに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は従業者間で常に共有しており、必要に応じ、その都度介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によって生じるニーズに対し、その都度話し合い、柔軟な対応や支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催により、地域との関わりも少しずつではあるが、取れてきており、地域の催しには協力・参加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を配慮しつつ、適切に医療が受けられる体制をひいている。	現在、2名が入所前からのかかりつけ医の受診を継続しており、他の利用者は、提携内科医師の往診を毎週受診している。歯科往診も毎週あり、必要な方は受診している。家族同行が困難な利用者に、職員支援で外来受診する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の悪化が著しい場合や急変の場合など、年間を通じてオンコールにて看護職との医療連携体制をひいて、適切な指示が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に備えて、日々医療関係者との連携を図り、利用者の急変時に備えられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医いや看護職とも十分に協議し、その都度最善な対応ができるよう、体制を整備しており、看取りについても、適切な対応ができるようチームとして取り組んでいる。	過去に看取り事例はあり、重度化時に家族と話し合い、同意を得ているが、契約時に重度化や看取りの文書による説明・同意は交わしていない。管理者は、重度化時対応の指針の作成、終末期ケアの取組みの在り方、医療連携体制の確認や職員の研修など体制整備の見直しを検討している。	医療連携体制加算の要件も再確認し、重度化や看取りの対応の指針を整備して、入居契約時に説明・同意を得ること及び、重度化時にはその都度、説明・同意を重ね、記録しておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限必要な医学的知識は、法人内や事業所内の研修を定期的に行っており、急変や事故発生時に迅速な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルは事業所に備えておいており、緊急時の連絡。避難体制の周知徹底をしている。	昨年1月に通報、避難訓練を実施している。スプリンクラー、自動火災報知設備が設置され、水・保存食の備蓄もある。2か所の階段とエレベーターの他、リビング・浴室・居室から広いバルコニーに避難可能である。緊急時対応の研修、訓練の強化が課題である。	前回の外部評価でも課題とした、年2回の法定義務の訓練実施を望むとともに、ホームの全職員が火災や地震、水害などの緊急時に具体的に即応できるよう、机上想定も含めて、頻回なミニ訓練や研修の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	従業者には常に個々の人格に配慮した声掛けを心がけるよう促し、定期的に接遇の研修を行い、対応強化に努めている。	法人全体で接遇の研修を実施している。管理者は、排泄や入浴などの際のプライバシー配慮や、馴れや親しさによる指示的対応や呼称、言葉遣いの乱れなどに留意して、人格の尊厳を重んじるケアの基本に立ち返るよう、注力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりのなかで、本人の思いや訴えを傾聴しながら、その思いの実現のため、自己決定できるような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を基本ベースに取り組んでおり、個々のペースで過ごして頂けるよう柔軟な体制をひいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や身だしなみは、本人の希望に沿って物を選んで着用してもらえるよう、声かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	十御者と一緒に盛り付けやはい下膳をしてもらっており、自宅で生活されておられた時のような環境づくりに努めている。	3食とも配食業者からの調理済みの主菜を、職員が温めて仕上げています。ご飯と汁物はホームで作る。盛り付け、配膳、食器洗い等と一緒に利用する者もいる。月1回程度、行事食を皆で楽しむこともある。職員は利用者と一緒に食事していない。食彩豊かな食の充実が課題である。	管理者、職員は美味しい食事の提供を志向して、ホームでの月1回の食事は手作りの増回も検討しており、実践を期待したい。職員も利用者と一緒に、同じ食事を喫食をできるように、同業者の状況も参考にして、職場環境の充実の一環として事業本部の援助も検討されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や栄養バランス等、定期的に管理栄養士と相談し、個々の状態や摂取量が適切かどうか、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、口腔内の清潔保持に努めている。また、週1回、歯科衛生士による口腔ケアの助言を取り入れ、適切な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを介護記録で把握しており、可能な限りトイレでの排泄をして頂けるよう、支援している。	介護記録で排泄状況を把握して、見守りを中心に、さり気ない声掛け誘導により、排泄の自立を支援している。現在、日中は10名中7名が、布パンツであり、おむつ着用で対応の利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事や、日々の運動を促している。また薬剤に頼らざるところは主治医や関係者の意見を聴いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めているが、希望により日中はいつでも利用できるよう、恪気王へんに対応している。	午後帯を中心に、週3回の入浴の確保を目標に支援している。浴室は2方向介助可能な個浴槽で、清潔である。拒否気味な利用者には、日時や介助職員の変更など、気分転換を図りながら工夫して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が一番過ごしやすい生活リズムを確保できよう配慮する等、臨機応変な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	従業者は薬の目的・副作用はおおむね理解した上で、服薬支援に努めており、日々の状態の変化の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やニーズに沿った支援を心がけており、生きる喜びや張り合いのある日々を過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩を心がけており、本人の希望に沿って外出の機会を確保している。また、季節の催しや地域の催し等に積極的に参加できるよう支援している。	天候や体調に配慮しながら、近くの公園や大学周辺に散歩に出かけている。気分転換に玄関前の芝生で憩えるような支援もしている。季節の行事外出や、スーパーでの買い物、フードコートでの外食の取組みもしている。家族と共に、病院受診や食事などで外出する利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況を勘案し、それぞれに応じた対応を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の利用者の希望により、臨機応変に適切な対応に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用フロアには季節に応じた飾り付けをする等、心地よい環境づくりに工夫している。	リビング兼食堂の両側の窓とバルコニーに通じるサッシの掃き出し窓からの採光が明るい。チューリップの球根を植えたプランターが置かれている。居室やトイレ、エレベーター、非常階段につながる廊下は広く、見守りの動線も良い。壁には写真や手作りの作品を貼り、ソファを置き、くつろげる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には本人が使い慣れた馴染みの物が置かれており、快適に暮らして頂けるよう工夫している。	居室にはベッド、エアコン、カーテン、ナースコールを設置している。利用者は夫々、馴染みの家具類やテレビ、飾り物、位牌なども持ち込んで、居心地よく過ごせるようにしている。入り口の引き戸に本人の写真の拡大コピーを貼るなどして、自分の居室とわかるような工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面は常に配慮しており、自立した生活が送れるよう配慮している。		